

「独創性を育む」研究最終年次

愛知教育大学附属岡崎中学校 研究アドバイザー

信州大学教授 伏木 久始 先生

「教育」については誰もが評論家になれますが、教育現場で教師たちが悪戦苦闘している日々の事実や、子どもたちの学びの実態を正確に理解する努力をしないで、無責任な批判ばかりを繰り返すことは何の意味もありません。「教育」の営みの中に育っている一人一人の子どもに着目して、建設的な議論をしようという仲間を応援します。(伏木久始研究室Webサイト「トップページ」より)

○主な経歴

S38 栃木市生まれ

S61 東京学芸大初等教育教員養成課程社会撰修 卒業
同 大学院教育学研究科修士課程 (～S63)

H1 文化女子大学附杉並中・高教論 (～H9)

H9 東京学芸大大学院博士課程 (～H12)

H12 東京学芸大附竹早小教論 (～H15)

H15 信州大学教育学部 助教授 (H24～教授)

H23 国立教育政策研究所 統括客員研究員

H25 中央教育審議会・教員養成部会 専門委員

H27 (独)教員研修センター・次世代型教育推進センター・アドバイザーボード

H28 (独)教員研主センター(教職員支援機構)・フェロー

H28 信州大学大学院教育学研究科・高度教職実践専攻代表

H31 日本教職大学院協会理事

R1 長野県教育委員(教育長職務代理者)



○その他

- ・小・中・高校から請われて、年中、長野県内外の学校を駆け回っておられます。
- ・常に子どもの立場から考えるアプローチを大切にされています。
- ・中教審の委員や教職員支援機構(NITS)のフェローなど、国の仕事に多数従事。「主体的・対話的で深い学び」の実現に関するテーマでの講演も多く行われています。
- ・北欧やオセアニアの教育にも通じておられ、世界的な視野から教育について言及され、日本の「あたりまえ」や「ふつう」に一石を投げられます。
- ・ICTに強いが、自分のことをICT教育の教員とは認めません。ICTを道具として積極的に活用し、子どもの主体的な学びを促されます。コロナ禍以前からオンラインで学生の指導を行われており、最近では、Zoom等の活用法の研修を依頼されることも多いそうです。